

学校名	北杜市立明野小学校	教科等	国語科 総合的な学習の時間
研究主題	新たな学びの姿に向けた授業の創造 ー明野スタイル学習の実践ー		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①学習者主体の学びの推進

- ・ 1人1台端末の活用推進
- ・ 児童同士の関係性の質向上に向けた実践
- ・ 自己決定場面の設定
- ・ 探究のサイクルを意識した授業実践

②学習者の自己調整や教師の授業構想・評価を支える手立ての検討及び実践

- ・ ファシリテート型授業の理論研究
- ・ 条件下での裁量を与えるフレームの先出し
- ・ ICTを活用した学習進捗状況の可視化

③新たな校内研の在り方の検討及び実践

- ・ クラウド環境を活用した校内研の実施
- ・ 外部講師による日常的な参観支援体制
- ・ 全学級による授業公開
- ・ 公開研究会の運営における新たな取組

(2) 具体的な研究活動

- ①・国語科を中心に、様々な教科において1人1台端末を活用し、児童に活動を委ねる場面を教師が意識しながら、単元や授業を構成した。
- ・ 日常的な1人1台端末の活用と児童同士の関係性の質向上をねらった対話の機会を保障し、学習場面においても児童自身が日常生活での経験を生かせるようにした。
  - ・ 自己決定の経験を重ねることが自律性の成長を促すと考え、各学年の実態や各教科等・単元の目標に応じて、様々な自己決定場面を設定した。
  - ・ 先進校実践を参考に、学年の壁をなくして各自で探究活動に取り組む「個人総合」を年間20時間設定した。

- ②・上越教育大学阿部隆幸先生、文教大学小幡肇先生を講師に招聘し、教師のファシリテートの在り方や授業における子供の見取り方等を学んだ。それを基に教職員間でマインドセットを共有し、授業改善を進めた。
- ・ 授業において、上記講師による理論研究を基にして、学習者の自己調整と教師の単元を見通した授業構想及び評価を支えるため、学習内容の先出し(フレームの先出し)や学習進捗状況を可視化するシートの導入を推進した。

**学習の流れを先に示す (Teamsで)**

**自己決定とも関連リンクの活用 複数の学習をセットで示す**

**進捗シートで見取る・価値付ける**

**学習の流れを先に示す (ホワイトボード)**

- ③・連絡、研究会の資料提示等をクラウド上で行った。
- ・「有識者による学び＝放課後」という当たり前を打破し、指導主事や大学教授といった有識者に授業を日常的かつ定期的に参観していただき、即時にフィードバックをいただいたり、教師や子供の変容を見取っていただいたりした。10回の公開授業を行い、のべ70名以上（公開を含めると110名以上）の方が来校した。
  - ・全学級による公開研究会を企画し、クラウド上で共同編集しながら、指導案を作成した。
  - ・公開研究会においては、授業の公開のみならず、参考書籍の展示や受付のDX化、保護者及び学校運営協議会等の協力による当日の運営等、新たな形での運営に取り組んだ。

## 2. 研究の成果と課題（○成果 ▲課題）

- ①○学校として毎週の対話や1人1台端末の活用が定着してきた。学習の自己調整につながるように足場を作ることが子供の安心感や意欲につながる。
- 自己決定については、何度も経験を積ませることで、徐々に学習の目的に応じた決定が自らできるようになる様子が見られた。
- 明野スタイル学習（通称：あけスタ）では、選択や決定が重要であった。学びの中で「選択する」場面があることで、子供たちは主体的に活動に取り組むことができていた。
- ▲子供の決定を尊重しつつも、教科の本質や目標に迫れるように教師が指導性を発揮し、授業や単元の修正、子供が気付かない部分の意図的な提示等による思考のゆさぶりを大切にしたい。
- ▲作った足場を意図的に外すことで、徐々に模倣から自らの学びを調整できるように、教師の支援を考える必要がある。
- ②○講師を招聘した際には、学級担任だけでなく、養護教諭、学校図書館司書等、全職員で研修を実施した。「なぜこの研究が必要なのか」を全職員で考えることで、授業改善に取り組む意識が高まった。
- 学習の進捗が可視化されることで子供にとっては取り組むことが明確になり、自分のペースで学習を進めやすい。また、教師も日常的に授業改善に取り組む意識が高まった。
- 学習の進捗シートを活用することで、伴走が必要な子供に即時に対応したり、自分で進める子供に発展的な学習を促したりできた。
- ▲振り返りの質の向上を目指したい。振り返りを書くことが目的ではないため、子供が振り返りの目的や効果を見いだせる指導を続けていくことが必要である。
- ③○資料作成、目標設定、反省等においてクラウド活用が日常的になった。
- 新たな学びに向けて、職員室での対話が活発になった。悩みや希望が共有できた。
- 共同編集や生成AIを活用した研究の反省、指導案作成や日常のデータによる記録をそのまま生かした研究紀要作成等により、効率的・効果的に校内研究を進めることができた。
- 指導主事をはじめ、多くの方に授業を見てもらうことで、教師も子供も慣れ、どのような状況でも変わりなく授業ができるようになった。
- ▲共同編集による指導案の作成により、全体の把握や調整はできるようになった反面、それぞれの指導案については、個人での検討になることが多かった。一つの指導案を全員で検討することの意義も感じられた。
- ④その他
- 全ての学習において、同じような学びの姿にすることが目的ではない。一斉か個別かという方法論ではなく、子供が授業を通して生き生きとした表情になり、資質・能力の育成につながる学びとなるように、授業をアップデートしていくことを今後も大切にしたい。

# 「子供主体の授業づくり」の事例について

【子供の自己決定場面を、学年の実態や教科の特性に応じて設定していく】

## 本事例のPoint

### ➤ 様々な自己決定の場面の設定



- ・様々な自己調整につなげる
- ・子供主体の授業へ

## 本事例の概要

- 目標の決定
- 人・もの・ことの決定
- 場所・時間・順序の決定
- 学習コンテンツの決定 等



- ・決定は子供に委ねる
- ・条件下の裁量を与えていく
- ・目標に迫れるように教師は価値付け・ファシリテート

### 成果 (○) と課題 (▲)

- 何度も経験を積ませることで、徐々に学習の目的に応じた決定が自らできるような様子が見られるようになってきた。
- ▲ 子供の決定を尊重しつつも、目標に迫れるように教師が指導性を発揮し、授業や単元の修正、子供が気付かない部分の意図的な提示等による思考のゆさぶりを大切にしたい。



- 1年
- ・ループリックの決定
  - ・学ぶ相手の決定
  - ・学ぶ場所の決定
  - ・学習する「のりもの」の決定
  - ・資料（本・動画・模型など）の決定

- 2年
- ・ループリックの決定
  - ・学ぶ相手の決定
  - ・学ぶ場所の決定
  - ・学習時間の決定
  - ・学習を広げていく語彙の決定

- 3年
- ・ループリックの決定
  - ・学ぶ相手の決定
  - ・学ぶ場所の決定
  - ・目的に応じた学習コンテンツの決定
  - ・学習順序の決定
  - ・学習時間の決定
  - ・振り返りによる次時の見通しの決定

## 明野小公開研究会における視点



- 4年
- ・ループリックの決定
  - ・学ぶ相手の決定
  - ・学ぶ場所の決定
  - ・読み取り場面の決定
  - ・情報活用資料（ものしり図鑑・壁面掲示物・教科書・絵本）の決定

- 5年
- ・ループリックの決定
  - ・教材文読み取り時の学ぶ相手の決定
  - ・作文作成計画の決定
  - ・時間配分の決定
  - ・作文のテーマの決定
  - ・資料（作文のテーマに合った図表やグラフ）の決定

- 6年
- ・ループリックの決定
  - ・学ぶ相手の決定
  - ・学ぶ場所の決定
  - ・相手意識（誰に何をどう伝えるか）の決定
  - ・発信したい日本文化の決定
  - ・筆者の工夫のどの部分を取り入れるかの決定
  - ・調べ学習の方法の決定



# 「子供主体の授業づくり」の事例について

## 【教職員全員が主体性を発揮できる校内研への転換】 ～チームで悩み、思考、更新し続ける職場へ～

### 本事例のPoint

- 教師の個の強みを生かす
- 教師も協働的に創造する
- 教師もクラウド活用をする



- ・チームとして力量が高まる
- ・共に悩み、思考し、更新

### 本事例の概要

- 教師のマインドセット・自己調整
- ミニ校内研や日常場面での対話
- 指導主事等による日常的な支援体制
- 共同編集の活用



- ・目標に向かい、時間や学び方を調整。
- ・全学級で授業を公開。
- ・みんなでやるから悩みや達成感が共有できる
- ・外部の方に普段の授業を見てもらい、即時授業改善

#### 成果 (○)

- 資料作成、目標設定、反省等においてクラウド活用が日常的になった。
- 新たな学びに向けて、職員室での対話が活発になった。

### 共同編集で単元を構想

フェーズ	単元名	学習教材	学習活動の児童の実際	公開単元教材における児童の実際	単元の目標	身に付けさせたい学習能力	公開単元で教師が身に付けたい力	教師が身に付けたい学習能力	公開単元で教師が身に付けたい力	あけスタの選択・学び方選択学習・課題選択学習・自由進度学習
1年生	じどう車くらべ じどう車ずかんをつくらう	1学期：つばみ、「問い」と「答え」という文章形式を知る。 2学期：うみのかくれんぼ《事件の順序に沿って、3文で説明をする。》	学びに向かう意欲は高く、課題目に努力をすることが出来る。	教科書の教材文「つばみでは、ことばの意味や文章に書かれている内容を正しく読み取る事ができた。『問いかず』の文とこの『答え』の文を見つけてきた。読書が好き、読書の本をよく読んでいたが、文章を読むには差がある。	単元の目標に沿って文章の構成を考える力 情報と情報の関係について理解する力	公開単元に向けて児童につけさせたい力 公開単元で児童につけさせたい力	自動車を調べる力 自動車の関係について理解する力	児童によって大きな差があるため、教師がこまめに介入していくのが支援の仕方	学習活動の既し方	学び方選択学習
2年生	にたいみのことば、ほんたいのいのことば	主題と読語に気をつけようことばあそびしよう なまのことばとかな字	学びに向かう意欲は高く、自分たちの方で課題を解決しようと試みることが出来る。しかし、自分たちで読解を見えるという経験は少ない。	目標から読書に親しむ中で様々な読書に親しんでいる。しかし、それらの読書にまだまじりがあることには着目しておらず、作文を書く際などに使用する読書には差がある。	言葉の理解（語彙）を確かなる力 自分で選択して学習すること	読書をつなぐ力 公開単元に向けて児童につけさせたい力	読書をつなぐ力 読書をつなぐ力	読書力 自分で決定できない児童への声かけ、支援の仕方 主体的に学んでいる児童との関わり方	各々の学習活動を共有する方法	学び方選択学習
3年生	漢字学習	1学期に教師が授業に準拠しながら漢字学習の学習目標や学習計画を立てる意味や目的を学ぶ 漢字の広場 漢字の音読	学びに向かう意欲は高い。学期で学習計画を立てる。自分のためを重く、自分の学びの振り返るといった経験を積んできた。自分で決まらなかった学習目標も目的に沿って選択することができたり、学習意欲を高めたりすることができた。	1学期に授業で教えない漢字学習を継続させた。その中で、期末を境として、自分の苦手な漢字を見つけた。学びを進めていくが見られた。学習意欲も目的に沿って選択することができたり、学習意欲を高めたりすることができた。	漢字を讀んだり書いたりする力 漢字を文の中で使う力 目的に合わせて学習教材を選択する力 目標に向かって計画的に学習を進める力	漢字を讀んだり書いたりする力 漢字を文の中で使う力 目的に合わせて学習教材を選択する力 目標に向かって計画的に学習を進める力	漢字が向かない子をその気にさせる言葉かけ、声かけ 児童の現状や課題を見る詳細材料の整理 学習活動の既し方の検討	漢字の状況の可視化	課題選択学習	
4年生	ごんきつね	一つの場面(場面)を比べて読む、表現をもとに自分の考えを伝える	学びに向かう意欲は全体的に高いが、グループで行うと他人任せになる傾向がある。	一つの場面では、ゆみこに対するお父さんやお母さんの思いを表現をもとに説明することができたが、理由としては見えない部分があった。	自分の疑問に意味づけが出来るように 本文に立ち返って情報をもらって読める	読書をもとに、相手に納得してもらえただけの情報を示すこと。	読書をもとに、相手に納得してもらえただけの情報を示すこと。	読書共有の場での話し方、方法	学び方選択学習 課題選択学習	

### 多くの方に授業を参観してもらおう

校内研のときだけ？  
理論研究のときだけ？  
もったいない

## この数は？

110人 本校の授業見学及び指導・助言者のべ人数

義務教育課 中北教育事務所 北杜市教委  
総合教育センター 県内小中学校教員 大学教授  
保護者 学校運営協議会委員 GIGAスクールサポーター

10回 本校の授業見学及び指導・助言者の訪問回数